《第 93 号》***大学図書館の役割***

大学図書館は、「学校教育法施行規則」や「大学設置基準」で大学など高等教育機関に設置が義務づけられている図書館です。学生のための教養・教育図書館、教員や大学院生のための学術・研究用図書館の機能を備え、大学の目的を実現するため教育研究を促進し、学部の種類や規模等に応じて学術情報その他必要な資料を系統的に整備することが求められています。

図書・雑誌などの学術情報を体系的に収集・保存し、資料形態や学術情報流通の変化に対応しながら機能を維持しています。資料の電子化が進んでいますが図書はまだプリント版の方が多く、手狭になった書庫の整理や除架も毎年必要な作業になっています。

大学図書館の蔵書は学術雑誌の比率が高く、外国雑誌の価格高騰の常態化や、出版社による電子ジャーナルのパッケージ化などは、図書館運営に大きな影響を及ぼしています。単独での対応には限界があり、本学では大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）や、日本医学図書館協会（JMLA）と日本薬学図書館協会（JPLA）による JMLA/JPLA コンソーシアムなどに参加し、より有利な契約に努めています。

内国雑誌も休刊や廃刊の増加、予算見直しなどにより減少傾向にありますが、購入・中止については社会変化や大学の方針などに合わせた選書を実施しています。

また、所蔵のない雑誌論文の複写物を他機関から取り寄せる相互貸借業務も、大学図書館の主要な業務の一つです。

その他、自主的な学習を支援するためのラーニングコモンズやスタディールーム、文献検索用 PC、プリンターなども整備し、図書館の資料の探し方やデータベースの使い方の情報リテラシーガイダンスも行なっています。

オープンサイエンス時代となり、オープンアクセス（以降 OA）の普及に伴う情報リテラシー教育、機関リポジトリによる OA 化推進、地域・他機関との連携強化など目まぐるしい変化への対応には、職員の情報収集や専門能力の向上が必要となります。

2023 年 1 月公開された科学技術・学術審議会情報委員会　オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会の「審議のまとめ」では、 コンテンツのデジタル化などを進める「デジタル・ライブラリー」「コンテンツのオープン化」「専門人材の配置」などが提示されています。

研究成果はデータやプレプリントといった早期でのオープン化が求められ、リポジトリ活用の推進、転換契約の検討のための APC（掲載料）実態調査などが喫緊の課題となっています。

このような学術情報を取り巻く大きな渦の中で、大学図書館は形にこだわらず成長を続けます。

図書館トリビア

2023（令和 5）年度「学術情報基盤実態調査」の結果が公表されました。
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2023/1418398_00001.html
OA ポリシー（大学の研究成果等のコンテンツを、OA にすることについて定め、明文化した方針）を策定している大学は 171 大学 （21.1%）、研究データポリシー（研究データの管理と利活用について、組織として策定した方針）を策定している大学は 211 大学（26.0%）ですが、今後 OA の加速化が進むことは間違いありません。

研究成果の OA 化に向け、リポジトリをご活用ください。

メールマガジンに関するご意見・ご質問は、図書館 tosho@j.iwate-med.ac.jp まで。
＜編集・発行＞ 岩手医科大学附属図書館